

# 山紫水明



第125号

---



第125号 目次

表紙	1
会長挨拶	3
二年間を振り返って	4
平成二十四年度臨時総会・新年会	6
各委員会報告	7
近畿・中央報告	16
編集後記	20

# 会長挨拶

## 二年間を振り返って

京都府神道青年会 田中 朋清



早いもので、平成二十三年七月に稲本前会長より会長のバトンを受け継がせて頂いてから、間もなく二年を数え任期を終えようとしております。

戦後間もない昭和二十六年に『神道のため、新しい発展の道を求め、そしてこの神の道を永久に守り伝える』ことを使命として京都の地に当会が創立されてより六〇周年という、還暦の大きな節目を迎えた期でございました。

周年にあたっては、通常事業に加えて、『和〜つなぐ心〜』を主題に掲げ、岩田実行委員長率いる創立六〇周年記念事業実行委員会を中心として、様々な記念事業を全会員が一丸となつて企画・実施して行く過程は、まさしく先輩諸賢が積み上げて来られた当会六十年の確かな歩みを学び、京都神青の魂を体感させていただける大変貴重な機会でありました。

平成二十四年二月には、創立六〇周年記念講演会・記念式典を開催し、併せて『山紫水明』記念号を発行しました。三月には皇居勤労奉仕を、六月には平安神宮において周年奉告祭の後、記念交流会を実施いたしました。また、本年二月には第六十二回神宮式年遷宮を目前に控え、愈々遷宮に対する機運が高まりを見せるなか、日本の「ところ」を守り伝えるため、京都府下の大学に在籍するおよそ一〇〇名の学生を募り「神主さんと行く伊勢参宮〜御遷宮に学ぶ日本人のこころ〜」を開催いたしました。その他にも「国宝大神社展」拝観研修やホームページのリニューアル等、様々な諸活動を展開させていただくことができました。

結びにあたりまして、このような記念の年に巡り合わせて戴いた御神慮はもとより、お支えいただいた多くの皆様へ改めて感謝申し上げますとともに、会員各位におかれましては、団居の心を大切に、今後益々積極的に活動に関わり互いに素養を高め合うことで、未来を確りと見据えた活動と事業を展開されますことをお願いいたします、退任のご挨拶とさせていただきます。

## 二年間を振り返って 執行部



**監事** 橋本 高純 (大井神社)

創立六〇周年という大きな節目を迎え、例年にも増して会務繁忙であったこの二年間、その大切な時期に監事という要職を仰せつかり、果たしてその役割を務め上げることができたのかどうか、反省するところもありますが、多くの会員の皆様と共に活動できたことに感謝申し上げます。現役最後の挨拶としたいところですが、まだ卒業ではありませんので、引き続きよろしくお願ひ致します。

**副会長** 岩田 康彦 (松尾神社)

副会長として創立六〇周年記念事業実行委員会委員長として任期を終えることができます。貴重な経験の場を頂き、「和〜つなぐ〜ころ〜」をテーマに悉く各事業が完遂できましたのは、会員各位のお力添えによるものと感謝に堪えません。ありがとうございます。

**会長** 田中 朋清 (石清水八幡宮)

**副会長** 橋本 以光 (梅宮大社)

会期が終わりに近づくにつれて、任務を果たしつつある満足感と共に、「これで最後なんだ」という寂寥感みたいな感覚が押し寄せて来るのを噛みしめておりました。当会六〇周年の佳節に副会長という大任を頂き、得難い体験を沢山得る事が出来ました。素晴らしい二年間を有難うございました。

**副会長** 湯脇 亨 (平安神宮)

創立六〇周年という節目の大役を仰せつかり、私のような者で良いのかと思う日々もありましたが、皆様のご協力のおかげで任期を終えることができました。次期もしっかりと精進活動に尽力して参ります。二年間有難うございました。

**監事** 米田 裕之 (賀茂別雷神社)

創立六〇周年記念式典を始め、周年事業が無事成功致しましたこと、ご協力頂きました皆様には衷心より御礼申し上げます。今後は神道活動での経験を糧に、先輩諸兄が培ってきた親本反始の心を継承し、「祭祀之事、在徳則敬、心不放散、神事享べ」を肝に銘じて奉務に勤めて参りたいと存じます。

**事務局次長** 北島 通人 (石清水八幡宮)

この二年間大変お世話になり又皆様からのご指導ご鞭撻にありがたく思います。至らぬ点が多々あり反省ばかりの日々ではありましたが多くの貴重な経験をさせて頂きました。今後この経験を活かしていきたいと思っております。誠にありがとうございます。

**事務局次長** 小坂 政貴 (城南宮)

とても長い長い二年間でした。周年事業の記念式典・調頒会では、事務準備の多さに、日々脱線しそうになりながらも何とか駆けつけとしての役割を果たす事ができました。事務局として的人格は、いまひとつであったと思いますが平常心や真心を大前提に考え再尔神職としての事務局長を務め終えた事は、自分にとって大変良い経験となりました。二年間有難うございました。

**会計局長** 松大路 和弘 (北野天満宮)

会計局として正常な財務が保てたかどうかはわかりませんが、皆さまのご協力のおかげで二年間務めさせて頂いていただくことができました。ありがとうございます。

**会計局次長** 中村 勇輝 (京都府神社庁)

この二年間、会計局次長として当会の事業に取り組ませて頂き、私自身貴重な経験となりました。次期もこの経験を生かし当会の活動に精一杯取り組んでいきたいと思っております。二年間田中会長をはじめ役員、会員の皆様、有難う御座いました。

## 二年間を振り返って 各委員長



### 組織委員長

中森 圭治 (京都府神社庁)  
任期中より前神武委員長の後任として委員長をお受けして一年少々。充分な事業が出来たのか不安です。役員執行部並び委員の皆様ご協力有難うございました。

### 事業委員長

生寫 宏盛 (大將軍八神社)  
「役は人を作る」と言います。人間役をこなすのが精一杯の自分も、皆さんと神青時間を共有する事、委員長を経験する事で、少しは人間に近づけたかな、ありがとうございました。

### 渉外委員長

高井 大輔 (貴船神社)  
周年事業も挟み、本当に忙しい二年間でございましたがひとえに委員の皆様あつての活動でした。すばらしい同志に巡り会えたこと感謝申し上げます。

### 教化委員長

中川 正盛 (朱智神社)  
諸先輩方が脈々と受け継がれてきた京都府神道青年会の役員を仰せつかり、この二年間で当会の発展に微力ながら貢献できたこと役員・委員の皆様のお蔭です。

### 広報委員長

西野 貴洋 (伏見稲荷大社)  
前鳥居南委員長よりバトンを受け約一年。皆様のお力添えのおかげで無事に任期を終えることが出来ました。この経験を次期にも活かしていけたらと思います。

### 親睦委員長

東良 勝文 (賀茂御祖神社)  
生来、重責を担う器ではない私が二年間の務めを全う出来たのも皆様の支え、協力のお蔭と思っています。次期もしつかり諸活動に尽力して参ります。有難うございました。

## 平成二十四年度 臨時総会・新年会

### 臨時総会

平成二十五年二月五日午後六時より、京都センチュリーホテル「瑞鳳の間」に於いて平成二十四年度臨時総会が開催された。会員六十余名が出席した会では、先ず小坂事務局長(城南宮)の司会により開会、田中会長の先導で神宮を遙拝、国歌斉唱、中川教化委員長(朱智神社)の先導にて敬神生活の綱領唱和、そして田中会長の挨拶。議長選出は執行部一任となり、潮瀬文君(伏見稲荷大社)が選出された。

議事は議案第一号、鳥居南広報委員長の府外転出に伴う役員補任の件。田中会長より西野貴洋君(伏見稲荷大社)が指名され承認を受けた。次に議案第二号、次期会長選出に関する件。米田監事(賀茂別雷神社)が次期会長選考委員会の経過説明を行ない、現副会長の岩田康彦君(松尾大社)が次期会長として承認された。岩田次期会長の挨拶では、会員の参加なくては会の活動は何も始まらないと会員の積極的な参加をお願いすると共に意気込みを語った。続いて議案第三号次期監事選出に関する件。これも米田監事より次期監事選考委員会の経過説明がなされ、現会長の田中朋清君(石清水八幡宮)と、現監事の稲本高統君(大井神社)が承認された。

その後報告事項として創立六〇周年事業である教化委員会の「神主さん」と行く伊勢参宮の開催内容と広報委員会の「HPリニューアル」の経過を報告。その後会歌を合唱し橋本副会長(梅宮大社)の閉会の辞で会は終了した。

### 新年会

臨時総会終了後、同会場にて新年会が開催された。ご来賓として京都府神社庁長田中恒清様をはじめ京都府氏子青年連合会長小松隆志様、協賛業者、OB先輩各位など多数ご列席頂き盛大に開会した。東良親睦委員長(賀茂御祖神社)司会のもと会は溝脇副会長(平安神宮)の開会の辞により開会。田中会長挨拶のあと岩田次期会長より次期会長就任の挨拶が行なわれた。ご来賓の代表として、田中庁長、小松連合会長よりご祝辞を頂戴し吉田武雄先輩(豊国神社)の発声により乾杯。祝宴は和やかに進み、清興では、次期会長に聞いてみよう!!と題して事前にテーブルに配布された用紙に次期会長のウエストはいくつ?などの問題に対して数字を当てる余興が行なわれ、その最中には次期会長への質問がOB先輩や会員から出るなど清興は大いに賑わった。最後は本郷貴弘先輩による万歳三唱、岩田副会長の閉会の辞により閉会した。



# 委員会報告

◆組織委員会◆

## OB懇親会

十一月二十七日に毎年恒例のOB懇親会が開催されました。当日は多くのOB諸先輩方にご出席頂き、OBを代表し中田先輩の乾杯で懇親会は始まりました。

また、親睦委員による清興として『蛇と踊る田中会長』というテーマで絵画コンクールが行われ、会場は大いに盛り上がりました。

懇親会は、終始笑顔に包まれ、OB代表の杉浦先輩の万歳三唱にて、懇親会は閉会しました。

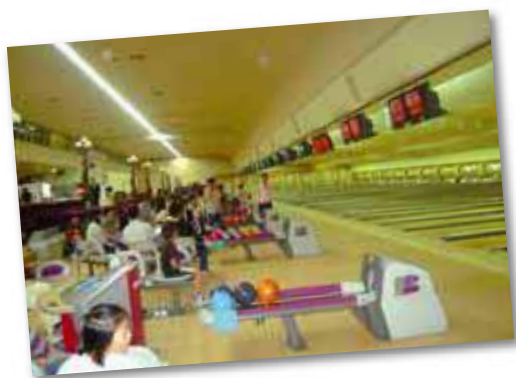
普段はなかなか交流する機会の少ないOBの方々と現役とが交流を深める貴重な時間となりました。



◆親睦委員会◆

## ボウリング大会

去る五月三十日しょうざんボウルにて恒例のボウリング大会が開催され、会員をはじめ巫女さんやご家族計七十八名の多く



の方にご参加いただきました。当日は溝脇副会長の挨拶・始球式でゲームはスタート。ストライクがでると会場は盛り上がり、親子で真剣勝負をする人、参加者と親睦を深める人など会は終始和やかに進みました。その後会場を楼蘭に移し懇親会が行われ、会を通して皆さん楽しく交流を深めることが出来た良い一日になりました。



## ◆教化委員会◆

## 鎮守の杜のお祭り体験

教化委員会主催の鎮守の杜のお祭り体験が八月十七日に御香宮神社で開催されました。事前に地域の方や近所の商店、最寄り駅などにもチラシ配りを協力していただき、当日は真夏の暑い日にも関わらずたくさんの親子連れで境内は賑わいました。

本殿で正式参拝の後、絵馬堂へ移動してヨーヨーつりや竹馬、輪投げや竹トンボ作りなどの昔ながらの遊びの体験や、参集館ではサラリーマン大道芸一座による皿回しや手品や風船などを楽しんでももらいました。

参加した子どもたちは、工作に熱中したり、完成した作品を大事そうに見せてくれたり、友達同士で竹馬や皿回しに挑戦したり、中には本殿で御祈禱をしているのを興味を持って見ている子もいました。引率の保護者からは「神社にはお正月とお祭りの時にしか来たことがなかったのですが毎年しているのですか」「子供が喜んで来てよかったです」「またこのような機会があったらぜひ来たいです」などの声も聞かれました。

参加してくださったみなさんに喜んでいただくことができ、神社が少しでも身近な場所になるきっかけになったのではないかと思います。

(御香宮神社 金田伊代)



## ◆教化委員会◆

## 七五三の集い

去る十一月十四日、教化委員会主催による「七五三の集い」が平安神宮に於いて行われた。当日は市内三施設の子供達九名が集まり、田中会長の挨拶の後に本殿で神妙な表情で七五三祈願を受けた。その後の記念写真撮影の頃に突然の降雨。予定していた神苑散策は省略となった。会場を勅使館に移し、中川委員長の挨拶の後に京都府かるた協会の方によるかるたの説明と、競技かるた取りの実演を見学した。本格的な説明や実演は、子供達には少し難しかったかもしれないが、その後の参加者によるかるた取り大会は盛り上がりを見せた。我先にと札を取り合う子供達に混じり会員も真剣勝負？を繰り広げ、お土産にももらったかるたを持ち笑顔で帰っていく姿に、改めて子供達への神道教化の難しさを感じた催事であった。

(平安神宮 南坊城卓英)





## 創立六〇周年記念事業

## 「神主さんと行く伊勢参宮」

～御遷宮に学ぶ 日本人のこころ～



平成二十五年二月二十七日、教化委員会主催の創立六〇周年記念事業「神主さんと行く伊勢参宮」～御遷宮に学ぶ 日本人のこころ～が実施された。この事業

は京都府下の大学生等を対象に今年遷宮を迎える伊勢の神宮へ当会の神主と共に詣りする目的で募集したところ一〇〇名を超える学生からの申込みをいただいた。

学生と田中会長を含む当会参加者二十五名の一行を乗せたバスは、当日小雨が降るなか、早朝に京都駅を出発。途中土山のSAで休憩を挟み豊受大神宮（外宮）へ到着。一行を歓迎するかのようには雨は止み日が射す中、各自三つのグループに分かれ神宮神職による案内のもと御垣内参拝・別宮三社参拝・せんぐう館へとそれぞれ足を進めた。せんぐう館では神宮神職による講演も頂き学生達に神宮とはどういうところなのか、遷宮とはどういうことなのか等、非常にわかりやすく丁寧にご説明いただき我々会員にとっても有意義な時間となった。



一行はバスで神宮会館に移動し、田中会長からこの事業について「日本の総氏神であるこの神宮を見て聞いて五感で感じて欲しい」と挨拶。その後、昼食をすませ皇大神宮（内宮）へ出発。宇治橋前でも神宮神職に迎えられた一行は神楽を奉納。多くの学生が初めて目にする神楽の光景に目を奪われていた。神楽に続いて内宮での御垣内参拝へ。

なにごとのおはしますかはしらねども

かたじけなきになみだこぼるる

平安時代の歌人西行が詠んだように、きっと学生達も伊勢の神宮で日頃の生活とは違う特別なものを感じたことだろう。

参拝を終えた一行はこちらも楽しみにしていたおかげ横丁等を自由散策しお土産を求めるなど旅の終わりを満喫していた。

長い歴史の中で継承されてきた日本人の祈り「日本人のこころのふるさと」である神宮、そして式年遷宮を知ることで祖先や日常への感謝を改めて感じる一日となった。





こちらは参加学生を代表して荒堀さんと榎並さん二名の方に今回の事業について感想を述べていただいたものです。

伊勢神宮に正式に参拝に行かせて頂いて、とても貴重な経験となりました。

参拝するだけではなく、地域の歴史や伝統を知ることができ、自分自身の知識として吸収することができました。また、海外の方が神宮を参拝に来られた時に、式年遷宮は古くて新しいという表現をされた話を聞き、本当にその通りだと共感し、大変印象に残りました。今回、このような経験をさせて頂いたことに感謝し、今後の自分これからの御奉仕に活かせるよう懸命に努力していきたいと思えます。



## 「国宝・大神社展」拝観

春たけなわとは言え、日が暮れると肌寒さの残る四月二十二日の晩、岩田実行委員長を始め参加会員十二名が京都駅八条口新幹線中央改札前に集合。ホームにて岩田実行委員長より挨拶。一同気を引き締め、当会創立六〇周年記念事業の最後を飾る行事、これから始まる旅路への期待を胸にJR新幹線のぞみに乗り込み、いざ東京へ。予定時刻よりも少し早い午後十時四十五分、ホテルサンルート「ステラ」上野に到着。明日の行程の無事を祈りながら眠りにつきまじりました。

四月二十三日、午前七時三十分起床。空は快晴、良い一日になりそうな予感。朝食は各自で取り、午前八時五十分ロビーに集合。中にはまだ少し眠そうな会員も。先ずは今事業の中心となる「国宝・大神社展」拝観の為、徒歩にて東京国立博物館平成館へ向かう。博物館入口では開館前だというのに長蛇の列ができ、入館前から展覧会の人気をうかがい知る。入館後、平成館入口にて博物館教育講座室長の丸山士郎氏よりご挨拶をいただき拝観。大神社展は第六十二回神宮式年遷宮記念事業とし



て、その心を次世代へ確実に継承することを目的とされ、全国の神社に伝わる宝物や奉納品をはじめ、神社ゆかりの名品による多彩な日本文化の一端を展覧する内容で、これだけの社宝が一所に集まる機会は滅多になく、その全てが私達青年神職にとって神道・日本の信仰についてより深く理解し感じ得ることのできる貴重な経験となりました。

拝観後はJR山手線にて代々木へ向かい、正午前、神社本庁に到着。総会会場にておいしい弁当をいただき、午後一時より神道青年全国協議会第六十五回定例総会に出席傍聴。この度、我々近畿地区から輩出する南坊城光興新会長体制の始動を現場で感じ、近畿地区の一員として、全国の一員としての意識を共有することができました。

次に明治神宮へ自由参拝。宝物殿では文化部長の藤田長弘氏による懇切なご案内をいただき明治神宮ゆかりの社宝を拝観、また予定にはなかったのですが、数年前前からパワースポットとして人気の「清正の井戸」（井戸の写真は携帯電話の待ち受け画像にすると願いが叶うと言われています）のあるお庭にもご案内いただきました。現在、「清正の井戸」の写真が何名かの参加会員の携帯電話の待ち受け画像になっているとか、なっていないとか。

今回最後の行程先、エビスビール記念館へもJR山手線で向かう。少し詰め込みすぎた行程の為、車内では会員の顔にも少し疲労の色が見え始める。気を取り直して午後五時より記念館にて「エビスツアー」なるものに参加。案内人のもと、エビスビールの歴史を学び、二種類のビールが試飲できるというツアー。下戸の私はノンアルコールビールで雰囲気だけ味わいま



(大將軍八神社 生寫 宏盛)

した。周りの皆は、先ほどの疲労感はどこへやら、アルコールの力で先ほどの活力を取り戻していました。その勢いそのまま、恵比寿にて夕食。新幹線出発の時間が迫っているため慌ただしく恵比寿より品川へ。帰路は品川駅よりJR新幹線のぞみに乗り込み、午後十時十五分帰京。橋本副会長・岩田実行委員長より締めめの挨拶後、解散。

一泊二日とはいえ、ほぼ日帰りの短い時間に詰め込んだ行程でしたが、天候にも恵まれ参加会員の充実した顔を見ていると、本当に有意義な事業を務めさせていただいたと実感しています。無事に事業を終え、田中会長を始め、ご指導いただいた執行部役員の皆さん、色々と補佐してもらった委員皆に心から感謝します。

◆事業委員会◆

菓子と信仰  
〜和菓子作り体験を通して〜

五月二十日(月) 上京区の有斐齋 弘道館にて事業委員会主催 研修会が会員、巫女、事務員等四十三名という盛況のもと開催されました。

当日は有識菓子御調進所「老松」当主 太田達氏より「菓子と信仰」と題し、全国の各祭事に用いられる菓子(神饌)や菓子を用いた行事等について写真を使いながら説明をいただきました。

その後、参加者は、太田氏の説明を聞きながらこぢない手つきで「こなし」とよばれる生地で和菓子作りにチャレンジ。初めての経験で苦戦しながらも、最後は出来上がった菓子をお抹茶と共に頂戴し研修会の時間はあっという間に過ぎていきました。



# ホームページリニューアル

四月二十六日（金）京都府神社庁に於いて広報委員会主催研修会「当会ホームページリニューアル」～取り扱い説明会～が開催された。

当会ホームページは創立五〇周年記念事業として平成十四年度に立ち上げられ、今回創立六〇周年記念事業の一つとしてリニューアルされた。

当日はHP作成依頼業者である(有)北極星の仲尾宗泰氏を講師に招き、取り扱い等についてご説明頂いた。

仲尾氏は一般ページのリニューアルと共に、今回は特に会員専用ページの強化を図り、会員同士での情報共有や各行事の案内等も書き込むことが出来、委員会の開催案内や議事録管理など様々な場面に活用することが可能となった。また、委員会等の緊急業務なども会員ページ内でミーティング（会話・会議）が出来、会務運営に役立つ内容となっていると説明。

それぞれの操作方法も、なかなか日頃コンピューターに触れない人でも簡単に作業できるようなっており、一人でも多くの会員に触れて作業してもらい、今後の活動に役立ててもらいたい。



～会員ページ～



## 書道研修会 くもう1ランク上の字をく

去る平成二十四年十一月十二日午後七時より、吉田神社参集殿に於いて渉外委員会主催研修会「書道研修会くもう1ランク上の字をく」と題して松丸清山先生まつまるきよやまにご講演を賜りました。先ず、綺麗に書きたいのに自己流の癖がある書き方になってしまう二つの原因を話された。



### ① 持ち方

持ち方が悪いと手が上手く動かず文字が崩れてしまう。

自分のイメージした通りに鉛筆やペンが動かせない。

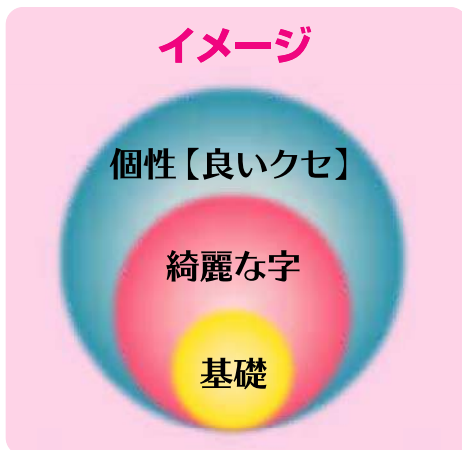
### ② 字は脳で書いている

そもそも、記憶している字が崩れている可能性がある。

手はあくまで脳に記憶された字の形を再現しているだけなので、頭の中で思い浮かべる字が美しくならない限り、どんなに手先が器用な人でも字は上手くならない。

ではどのようにすれば綺麗な字が書けるか？

**綺麗な字をたくさん見ることが大事**



綺麗な字の形をたくさん見れば見るほど悪い癖が目立たなくなり、綺麗な字になっていく。と話された。

次に、松丸先生の字を手本として字を書き実技を行なった。

それぞれ持ち方等松丸先生からご指導を頂き、あちこちで熱心に筆を持つ姿が見られた。

(平安神宮 水原和俊)



◆渉外委員会◆

### 他団体交流会

三月八日渉外委員会主催の他団体交流会が午後七時より「京APOLLO六角」にて開催された。今回はホテル観光コンシェルジュとの交流会で、当日は会員二十六名・コンシェルジュ十七名の計四十三名が参加した。

田中会長より「我々神職はどうしても最初は近づくにくい遠い存在であると言われますが決してそんなことはありませんのでどうぞ今日はおおいにお酒も意見も交わし交流を深めましょう」と挨拶。会は和やかに進みお互い積極的に名刺を交換し話に花を咲かせあつという間に時間が過ぎていった。

コンシェルジュ代表で挨拶をしたホテルグランヴィア京都の村井哲也氏は「今回の交流会は我々も二年越しで実現した非常に待ちに待っていた会でした。各社の神職さんと交流を深め意見交換等をする事で今後の仕事に活かしていきたい」と話していた。



## ヤチマタ募金活動

恒例のヤチマタ募金活動が一月二十五日北野天満宮（参加者十二名）・二月三日吉田神社（参加者二十名）に於いて実施されました。両日とも寒さが厳しい中会員が大きな声で募金を呼びかけました。吉田神社では会員神社の巫女さんやご家族にもご参加頂きました。お蔭で多くの参拝者のみなさまから温かいお気持ちを頂戴いたしました。



## 近畿地区報告

### 「金華山黄金山神社復旧支援活動」活動報告

去る十一月七日から八日にかけて宮城県石巻市金華山黄金山神社にてボランティア活動を行った。京都神青からは稲本高統監事、黒木崇史、猿渡諒の三名が参加した。

復興作業は主に土砂崩れで埋まった貯水ダムの瓦礫の撤去作業に従事した。重機が入れない為、一年半経った今でもそこには巨大な岩が沢山転がっていた。そのため我々は人の手のみまさに人海戦術で皆協力し合い撤去にあたった。

作業は概ね順調に進んだが二日目の作業中、生憎の天候のため作業を途中で中断せざるを得ず、己む無く午前中に金華山を発った。当初の予定をいくらか諦めることとなってしまったのが悔やまれる。

然しながらボートにて帰港中、ふと金華山を見返すとそこには丁度金華山と牡鹿半島を結ぶ大きな虹が架かっており、その光景を見た私は畏きご神慮に感謝すると共に不思議な充足感に満たされていた。

また仙台への帰路、石巻市の鹿島御児神社とその周辺地域を視察した。ちょうどニュース番組などでしばしば津波の映像が流されていた地域である。

鹿島御児神社の高台にて、当地に縁故のある中村文彦君（北海道神青）より震災直後の状況を伺った。



草が伸びきり荒れ果てた津波跡を見ながら説明を受けるとその状況が真に迫り、胸の締め付けられる思いであった。

進まない復興作業に多くの住民が出て行き、依然として見通しは暗いと聞く。未だに震災は続いているという事実を身に深く感じた。

世間に目を向けても、過日報道のあった復興予算の流用問題をはじめ東北の被災地復興についてはかなり忘れ去られている感がある。

近日解散総選挙が行われるが、その焦点として脱原発が頻りに取り上げられているものの、被災地そのものの復興については、等閑にされていないだろうか。

縦令微力であるとしても、このように神職達が全国より集まり継続的な支援を行っていくことこそ震災と向き合い真の意味での日本再生の第一歩となると強く信じている。

## 臨時総会並第二回連絡会

平成二十四年十一月十九日、奈良市の法相宗大本山興福寺会館に於いて、臨時総会と第二回連絡会が開催された。

次期会長には当会監事の稲本高統君、次期監事に奥重貴君・飯森良光君が全会一致で選出された。続いて中央報告・特別委員会報告などの各種報告がなされ、臨時総会並第二回連絡会は閉会した。

なお、臨時総会並第二回連絡会に先立ち、研修会が行われ、会場となった興福寺・中金堂復元工事作業場に集まった会員は、興福寺の弓川良俊執事に御案内戴き、工事を担当する株式

会社瀧川寺社建築の瀧川伸社長から、天平時代の建物を甦らせることの難しさ等の説明を受けた。

## 近畿地区研修会・第三回連絡会

三月六・七日に神道青年近畿地区連絡協議会第三回連絡会地区研修会が奈良県の橿原市にて二日間に亘り開催されました。

連絡会では特別報告とし、福島県神道青年会 村上真也会長より『東日本大震災と原発事故』・北海道神道青年協議会 前田穰会長より『北方領土について』・島根県神道青年協議会 青木義親会長より『島根県神道青年協議会の竹島についての活動』と現在日本が抱える大きな問題の最前線の地区より報告を受けました。



現地よりわざわざ近畿地区連絡会のためにとということもあり  
 会員全員が真剣な眼差しで報告を拝聴致しました。

又一日目の研修会では奈良芸術短期大学教授 前園実知雄先生より「『古事記』編者太安萬侶の墓誌と墓」と題し前園先生が太安萬侶墓誌発見の報告を受け調査した当時のことについて大変くわしく御講義戴きました。その後懇親会となり各地区の情報交換等大いに盛り上がりました。

又二日目は神武天皇陵参拝をし檀原考古学研究所付属博物館見学・多神社参拝をし昼食後昨日前園先生よりお話のあった史跡太安萬侶墓見学をし近鉄奈良駅にて解散となりました。

## 定例総会並びに研修会

平成二十五年五月二十七・二十八日、檀原神宮会館に於いて、来賓に奈良県神社庁長柄尾泰治郎様をお迎えし定例総会並びに研修会が開催された。

神道青年近畿地区連絡協議会稲本新会長を盛り上げるべく定例総会には当会より十二名の会員が出席。

定例総会に続き皇學館大学教授 毛利正守先生による「天照大御神と神武天皇」古事記と日本書紀を通して」と題した研修会が執り行われた。その後、檀原神宮養正殿に於いて懇親会が開催され、会場は大いに賑わった。

翌日は雨が心配されたが、檀原総合運動公園において親睦野球大会が無事に開催された。熱戦が繰り広げられるなか京都は初戦、兵庫に〇―三で惜敗し五位決定戦で和歌山と対戦。和歌山戦では京都の優秀選手賞を受賞した岩田次期会長の活躍もあ

り六―四で見事勝利した。優勝は大阪の五連覇を阻止した兵庫であった。来年は是非京都が優勝を手にし、高松新監督を胴上げしたいものである。





## 中央報告

### 臨時総会・全国野球大会

去る平成二十四年十一月二十九日に神道青年全国協議会「臨時総会」が神社本庁で開催され、近畿地区・大阪府の南坊城光興君が次期会長に選出された。翌日の三十日には、「第三回全国青年神職野球大会」が、東京・明治神宮外苑軟式グラウンドで行われるべく、近畿大会覇者の大阪を中心としたチームで望み、当会から稲本監事、小坂事務局長、高田会員の三名が参加。大会前日には新橋にて決起会が行われ、優勝に向け一致団結をした。

当日の早朝に目が覚め、窓の外を見ると朝日が眩しく試合に対するモチベーションが高まりつつある。朝食を摂っている時に、「昨夜の雨でグラウンド不良のため中止」というまさかの一報が入る。なんのために東京まで来たのか、というやりきれない思いがある中、近畿チームはグラウンドに集まり実行委員会に懇願した。

大会自体は中止になったものの、東京・関東を交えた三チーム総当たり戦の親善試合を行うこととなった。結果は、近畿チームが二勝し親善試合の優勝を飾ることが出来た。次回は是非とも近畿大会で京都チームが優勝し、京都主体のチームで全国大会に望みたいものである。

### 中央研修会報告

三月十三日から十四日までザ・クラウンパレス新阪急高知にて平成二十四年度神道青年全国協議会中央研修会が神道青年四国地区協議会主管高知神道青年会担当の下開催されました。

開会式は大野会長の挨拶からはじまり担当地区実行委員長の吉川八尋君の力強い挨拶へと移りました。第一講では原口泉先生による「幕末日本人の人材教育」について幕末日本人の美しい心について御講義戴きました。第二講では今井雅之先生による「維新と感謝」神主さんへ神道を広めて欲しいとの熱いお気持ちを御講義戴き、その後懇親会へと移り高知の名産に舌鼓を打ちました。





第三講では井上和彦先生による「いま日本に迫り来る危機と自衛隊」を忘れてはならない東日本大震災における自衛隊の戦い」とのことと被災地での自衛隊の活動について御講義戴きました。

閉講後には、瀧澤近畿地区会長と我が次期近畿地区会長と共に京都・滋賀合同で高知県にて自主研修を行ったことも合わせて報告致します。若宮八幡宮を参拝の後長宗我部元親公初陣の像を見学し、桂浜にて坂本龍馬像を見学とそれぞれが自己研鑽を積む研修会でありました。

今回は、北海道地区が主管担当する中央研修会であり是非皆様にもご参加戴き何か感じとって戴ければと思います。

(石清水八幡宮 北島通人)

## 編集後記

ここに『山紫水明』第一二五号を発行いたします。当会創立六〇周年記念事業に携われたこと、又無事に任期を終えることが出来ましたのも皆様のお蔭でございます。有難うございました。そして委員の皆様お疲れ様でした。

第一二六号からは新広報委員による『山紫水明』をお手元にお届けいたします。今後も当会、広報委員会へのご支援ご協力賜わります様宜しくお願い申し上げます。



## 『山紫水明』第一二五号

題 字 頼新先生  
 表紙絵 松浦すみれ先生  
 編 集 広報委員会  
 発行所 京都府神道青年会  
 発行日 平成二十五年六月三十日  
 印刷 株式会社ユニティー